

南部拠点地区遺跡群No.13

唐舗建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.13

2024.1

前橋市教育委員会

コストコホールセールジャパン株式会社

技研コンサル株式会社

南部拠点地区遺跡群No.13

店舗建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.13

2024.1

前橋市教育委員会
コストコホールセールジャパン株式会社
技研コンサル株式会社



調査区遠景（前方右奥に赤城山 南から）



調査区全景（上が北）



調査区西側全景（上が北）



調査区東側全景（上が北）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中核として栄えました。律令時代になってからは、総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけざった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた前橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する南部拠点地区遺跡群No.13は、本市南部に広がる平安時代の水田跡の調査です。現代でも広く営まれている水田は、古代においても耕作されていましたが、浅間山の噴火に伴って降下した軽石で一度埋没してしまいました。当時の人がとには大きな被害をもたらしましたが、発掘調査においては、大きな手掛けとなりました。今回の調査では、この軽石の堆積が後世の影響を受けてあまり残っていませんでしたが、わずかな手掛けをたよりに調査を進め、周辺同様に水田耕作が行われていたことを確認しました。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、開発者であるコストコホールセールジャパン株式会社をはじめ、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進めることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和6年1月

前橋市教育委員会

教育長　吉川　真由美

例　　言

- 1 本書は店舗建設事業に伴う「南部拠点地区遺跡群 No.13（前橋市 0379 遺跡）」（前橋市遺跡コード：5 G 81）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、コストコホールセールジャパン株式会社の費用負担によって実施された。
- 3 遺跡の発掘調査および整理事業は、コストコホールセールジャパン株式会社から委託を受けた技研コンサル株式会社が、前橋市教育委員会事務局文化財保護課の監理指導のもと実施した。
- 4 発掘調査および整理事業の体制は下記のとおりである。

遺跡名　　南部拠点地区遺跡群 No.13（前橋市 0379 遺跡）

遺跡所在地　群馬県前橋市鶴光路町 755、756

監理指導　並木史一（前橋市教育委員会）

調査担当　前田和昭（技研コンサル株式会社）

調査員　曾根 裕（技研コンサル株式会社）

発掘調査期間　令和 5 年 10 月 30 日～令和 5 年 12 月 11 日

整理事業期間　令和 5 年 12 月 12 日～令和 6 年 1 月 31 日

調査面積　1,240 m²

発掘調査参加者および整理作業参加者は次のとおりである。

岡野 茂 丸山和浩（技研コンサル株式会社）

秋山 修 新井 實 安藤三枝子 飯田真也 上沢公一 大塚千明 岡本陽一 片沼優衣 金子栄生

金子ひろみ 鎌田 昇 川野京子 菊田武明 木暮朱実 北爪二郎 澤崎春希 高野 新 田代京子

田代光男 立川千榮子 田所順子 角田拓弥 中島三郎 中嶋千恵子 早川枝里奈 平井国榮

平澤小夜子 細野竹美 松本兼太郎 山岸明日香 口山拓郎 山田 進 吉村太一

- 5 本書の編集は曾根が行い、原稿執筆は I を並木が、他を曾根が行なった。

- 6 発掘調査で出土した遺物および図面等の資料は、一括して前橋市教育委員会で保管されている。

- 7 下記の機関に御指導・御協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

凡　　例

- 1 本遺跡におけるグリッドの座標値は国家座標（座標第 IX 系：世界測地系）を使用した。方位北は座標北を示す。また、従来通りに遺跡毎の任意座標は「南部拠点地区遺跡群 No.1」で設定された X = 0 (Y = - 67,400)、Y = 0 (X = 37,300) を使用した。なお、調査区位置図および調査区毎の遺構全体図においては国家座標・任意座標を併記したが、水田計測表においては、今回調査対象となった遺構が調査区外の広範囲にも同一面として検出される水田跡という特性を鑑み、共通の数値となる国家座標の表記を優先させた。
- 2 掘図に国土地理院発行 1/200,000 「宇都宮」「長野」、1/25,000 「前橋」「高崎」、前橋市発行 1/2,500 都市計画図、群馬県耕地課作成前橋南部地形図 1/2,500 (昭和 40 年) を使用した。
- 3 写真図版に国土画像情報（空中写真）、USA-R1250-38 (1948 年撮影) を編集して使用し、表紙の写真は CKT20203-C1-13・14・15、CKT20203-C2-13・14・15、CKT20203-C3-13・14・15 (2020 年以降撮影) を合成・編集して使用した。

- 4 土層および遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修）に掲げる。
- 5 遺構表示の記号は、溝：W、土坑：Dとした。
- 6 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。
遺構 溝・土坑・・・1/60、1/100、1/200 全体図 1/200
- 7 本文および表中の計測値については（ ）は残存値を、〔 〕は復元値を表す。
- 8 主な火山灰降下物等の略称と年代は次の通りである。
- 浅間A軽石（As-A）・天明3年（1783）浅間山噴火による降下テフラ
浅間B軽石（As-B）・天仁元年（1108）浅間山噴火による降下テフラ
榛名二ッ岳伊香保テフラ（Hr-FP）・6世紀中葉の榛名山二ッ岳噴火による降下テフラ
榛名二ッ岳渋川テフラ（Hr-FA）・6世紀初頭の榛名山二ッ岳噴火による降下テフラ
浅間C軽石（As-C）・3世紀後葉～4世紀初頭の浅間山噴火による降下テフラ

目 次

巻頭図版

はじめに

例言・凡例

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	2
1 地理的環境	
2 歴史的環境	
III 調査の方法と経過	6
1 調査範囲と基本方針	
2 調査経過	
IV 基本層序	6
V 検出された遺構と遺物	9
1 調査の概要	
2 中世以降の遺構	
3 平安時代末期	
VI 発掘調査の成果と課題	16
抄録	

挿図目次

Fig. 1	遺跡の位置	1
Fig. 2	周辺遺跡図	3
Fig. 3	基本層序	6
Fig. 4	調査区位置図	7
Fig. 5	全体図	8
Fig. 6	畦畔、歩行列、W-4~6	11
Fig. 7	歩行列、W-1・2・4~6	12
Fig. 8	W-3・7・8	13
Fig. 9	土坑	14
Fig.10	前橋台地南部地域のAs-B縦石下水田	17
Fig.11	本遺跡周辺の大畦畔想定ライン	18

表目次

Tab. 1	周辺遺跡一覧	4
Tab. 2	As-B 下水田計測表	15
Tab. 3	土坑計測表	15

写真図版目次

PL. 1	畦畔置石全景（南から）	PL. 3	D-8号土坑全景（南から）
	歩行列1全景（北から）		D-9号土坑全景（南から）
	歩行列4・5全景（北から）		D-10号土坑全景（南から）
	W-1号溝全景（北から）		D-11号土坑全景（西から）
	W-2・3号溝全景（北東から）		D-12号土坑全景（南から）
	W-4号溝全景（北から）		D-13号土坑全景（南から）
	W-5・6号溝全景（北から）		D-14号土坑全景（南東から）
	W-7号溝全景（北から）		D-15号土坑全景（南から）
PL. 2	W-8号溝全景（北から）	PL. 4	D-16号土坑全景（南西から）
	D-1号土坑全景（南東から）		D-17号土坑全景（東から）
	D-2号土坑全景（南西から）		D-18号土坑全景（西から）
	D-3号土坑全景（西から）		D-19号土坑全景（南西から）
	D-4号土坑全景（西から）		D-20号土坑全景（西から）
	D-5号土坑全景（東から）		D-21号土坑全景（南から）
	D-6号土坑全景（東から）		D-22号土坑全景（南から）
	D-7号土坑全景（南から）		D-23号土坑全景（南東から）

I 調査に至る経緯

令和5年2月24日、鶴光路町における店舗建設を目的とした埋蔵文化財の取扱いについて前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）へ照会があった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「前橋市0379遺跡」内であるため、文化財保護法第93条第1項の届出を提出する必要がある旨を、開発事業者であるコストコホールセールジャパン株式会社（以下「開発者」という。）の代理人へ回答した。令和5年6月1日、開発者から文化財保護法第93条第1項の届出とともに、試掘・確認調査依頼が提出され、同年9月6日・7日、市教委による確認調査を実施した結果、平安時代水田跡等を確認した。遺跡の現状保存に向けて協議を行ったが、計画変更が困難であることから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意に至り、市教委直営での調査実施は困難であるため、市教委の監理・指導の下、民間調査組織による発掘調査とした。令和5年10月23日付けで開発者と民間調査組織である技研コンサル株式会社の間で業務委託契約が締結されたとともに、両者に市教委を加えた三者で協定を締結し、発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「南部拠点地区遺跡群 No.13」（遺跡コード：5G81）の「南部拠点地区」は区画整理事業名、数字の「No.13」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。



Fig. 1 遺跡の位置

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

南部拠点地区遺跡群 No.13 は群馬県前橋市鶴光路町地内に所在し、JR 前橋駅から南南東に約 6 km、前橋南 IC から西におよそ 300m の場所に位置する。遺跡の北側は北関東自動車道が東西方向に走行し、西・南西側は住宅街、東・南東側はショッピングモールに囲まれている。以前遺跡地周辺は水田地帯であったが、現在は宅地や商業施設が増加し、農地は後退している。本遺跡は、前橋台地上の後背湿地に位置する。前橋台地は、約 24,000 年前の浅間山の山体崩壊によって利根川を流下してきた火山泥流堆積物（前橋泥流堆積物）が基となっている。泥流堆積後、小河川による浸食・堆積作用を受ける。その後河川の流路は安定し、現在は微高地と後背湿地の入り組んだ地形となっている。遺跡地周辺の河川を見ると、西と南側は利根川が南・南東方向に、東側は端気川が南東方向に流下している。利根川は以前広瀬川低地帯を流れていた（旧利根川）が、応永あるいは天文年間に現在の流路へ変わったと考えられている。端気川は、元々自然の流路であったものを旧利根川から取水するように改修されており、この改修は古代に始まったと考えられている。

2 歴史的環境

縄文・弥生時代 公田池尻遺跡（12）、西田Ⅲ遺跡（29）、徳丸仲田遺跡（37）、砂町遺跡（47）では草創期の有舌尖頭器が確認されている。また、前橋南 IC が建設された村中遺跡（25）、西田遺跡（27）では、中期から後期の土器が出土しており、近辺に集落が存在したと推定されている。台地東部では、広瀬川沿いの微高地に位置する山王若宮Ⅴ遺跡で縄文中期の住居跡が 1 軒確認されている。弥生時代では、徳丸高堰遺跡（35）で溝・土坑・ピットが確認されている。全体としては、前橋台地における古墳時代より以前の遺跡の確認事例は少ない。

古墳時代 古墳時代に入ると遺跡数は急増する。本遺跡周辺においても、S 字型を代表とする東海西部系や、東海東部・南関東系や北陸系などの土器が出土している。南部拠点地区遺跡群 No.10～12（2）、横手早稲田遺跡（18）、横手湯田遺跡（24）、中内村前遺跡では周溝を持つ建物跡が確認されており、この時期は住居形態も移入されている。住居跡は他に公田池尻遺跡、徳丸仲田遺跡、西善尺司遺跡（38）で確認されている。また低地の開発が進み、上滝桜町北遺跡（43）で As-C 下水田跡が、公田池尻遺跡、村中遺跡、西田遺跡、徳丸仲田遺跡で As-C を耕作土に含む水田跡が確認されている。また、用水路と推定される 4 世紀後半の大溝が徳丸仲田遺跡、砂町遺跡で確認されている。首長墓は広瀬川沿いの微高地に築造されており、4 世紀初頭～前半の八幡山古墳、前橋天神山古墳がある。また、本遺跡から南西約 2 km の場所には 4 世紀初頭の元鳥名將軍塚古墳（全長 96m、前方後方墳）がある。群馬県内で最も初期段階の古墳と想定されており、四獸鏡や石飼が出土している。その他、公田東遺跡（11）とその北側の櫛鳥川端遺跡では前期の周溝墓が 10 基確認されており、鳥形土製品が 1 点出土している。後期に入るとより遺跡数が増加する。下佐鳥遺跡（7）、朝倉工業団地遺跡群（8）、川曲遺跡（9）、公田東遺跡、公田池尻遺跡で住居跡が確認されている。生産遺跡としては、南部拠点地区遺跡群 No. 1・4・5・11・12、公田東遺跡、公田池尻遺跡、亀里平塚遺跡（13）、横手官田遺跡（15）、横手早稲田遺跡（18）、横手南川端遺跡（23）、横手湯田遺跡、西田遺跡、徳丸仲田遺跡、西善尺司遺跡、下内宅町畑（39）、西横手遺跡群（41）、上滝桜町北遺跡、上滝五反畑遺跡（44）で Hr-FA 下水田が確認されている。その内、横手官田遺跡、横手早稲田遺跡、横手湯田遺跡では Hr-PP 下水田も確認されている。古墳は 6 世紀初頭の亀塚山古墳（a）、6 世紀後半の山王金冠塚古墳（b）がある。現在の文京町、朝倉町、広瀬町、山王町、東善町の前橋台地では、前橋八幡山・天神山古墳をはじめとして、前期から後期まで継続して古墳が築造されている。

奈良・平安時代 前橋市元総社町付近に造営された国府と、郡ごとに置かれた郡衙を中心に、律令制に基づく統一的な国づくりが進められた。前橋台地上においても、条里型地割に基づいた水田開発が行われた。水田開発の最初の施工時期は明らかではないが、前橋市内の中原遺跡群では弘仁 9（818）年の地震による土石流に埋没し

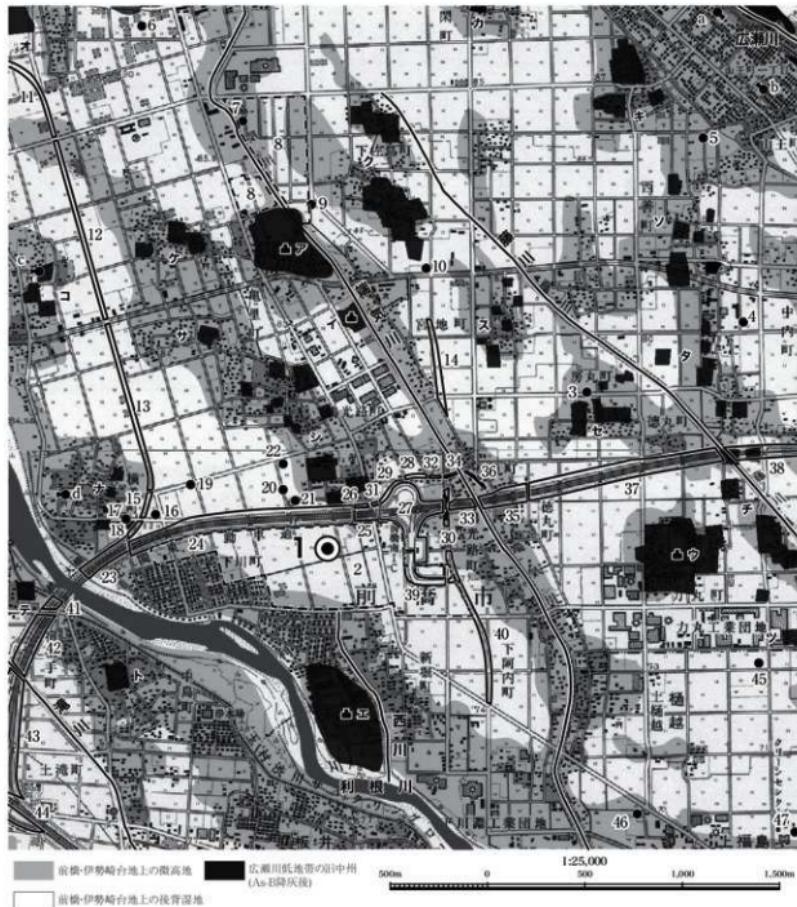


Fig.2 周辺遺跡図

た条里型地割の水田が検出されている。また、西田遺跡では As-B 下水田の下から 9世紀後半の住居跡が確認されている。したがって、遅くとも 9世紀代には条里型水田の開発が行われたと考えられる。また、弘仁 9年の地震の痕跡としては、南部拠点地区遺跡群 No. 4・上滝桜町北遺跡で噴砂が確認されている。

平安時代末期の 1108 年には浅間山が大噴火を起こし、群馬県内に大量のテフラ (As-B) を降らせた。県内の発掘調査で As-B 軽石に埋没した水田が多数確認されており、広範囲に大きな被害をもたらしたことが分かっている。As-B 軽石下水田が確認された遺跡は、上佐鳥中原前遺跡 (6)・公田東遺跡・公田池尻遺跡・亀里平塚遺跡・亀里銭面遺跡 (19)・亀里油免 II 遺跡 (20)・鶴光路練引遺跡 (21)・鶴光路油免遺跡 (22)・村中遺跡・西田遺跡・徳丸仲田遺跡・下阿内窓町畑遺跡等、数多く確認されている。この時期には、前橋台地上に水田地帯が広範囲に広がっていたと考えられる。水田の復旧に伴う痕跡は、公田東遺跡・公田池尻遺跡・中内村前遺跡で上層

の As-B を鋤き込んだ無数の半円形の掘削痕が As-B 下水田面に検出されている。また、本遺跡北西側の横手湯田遺跡では、中世の洪水層直下から、概ね As-B 下水田畦畔を踏襲した水田が検出されている。このような大規模災害が起きた平安時代末頃はすでに中央集権的な律令体制は崩壊しており、土地開発は国ではなく在地勢力が主体となって各地に多くの花園を形成するようになる。この時代の集落は朝倉工業団地遺跡群・公田東遺跡・西田II遺跡(28)・西田VI遺跡(32)・鶴光路複橋遺跡(33)・鶴光路複橋II遺跡(34)・徳丸仲田遺跡・西善尺司遺跡・西横手遺跡群・柄田添遺跡(46)で確認されている。

中近世 本遺跡周辺では多くの城館や環濠造構群が確認されている。周辺の城館は、宿阿内城・阿内古城・力丸城・新堀城がある。また、中世の居館に関する遺構が公田東遺跡・公田池尻遺跡・横手湯田遺跡・徳丸高堰遺跡・徳丸仲田遺跡・西善尺司遺跡・西横手遺跡群・上滝桜町北遺跡で確認されている。天明3年(1783年)には、浅間山の噴火によって浅間A軽石(As-A)が広域に降下した。横手宮田遺跡(15)、横手早稲田遺跡、横手湯田遺跡、下阿内老町畠遺跡、下阿内前田遺跡(40)、宿横手三波川遺跡(42)では As-A を地中に埋めて処理した土坑や溝が多数確認されている。

Tab. 1 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	遺跡の概要	報告書・参考文献
1	南部拠点地区遺跡群No.13	本遺跡	本報告書
2	南部拠点地区遺跡群 No1 ~ 12	古墳時代：堀溝状遺構、井戸、溝、塹、Hr-FA下水田。奈良・平安時代：溝、A-B下水田。中世：環濠遺構。	2009「南部拠点地区遺跡群 No.1」[「南部拠点地区遺跡群 No.2」、2010「南部拠点地区遺跡群 No.3」] 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2011「南部拠点地区遺跡群 No.4」[「南部拠点地区遺跡群 No.5」]、2011「南部拠点地区遺跡群 No.6」[「南部拠点地区遺跡群 No.7」]「南部拠点地区遺跡群 No.8」[「南部拠点地区遺跡群 No.9」]「南部拠点地区遺跡群 No.10」[「南部拠点地区遺跡群 No.11」]「南部拠点地区遺跡群 No.12」]
3	久保和町遺跡	古墳時代：中期住居跡。奈良・平安時代：住居跡、溝。	2010「久保和町遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
4	西善尺司遺跡	平安時代：A-B下水田。中世：溝・土坑。	2021「西善尺司遺跡」前橋市教育委員会
5	西善尺司屋根跡	平安時代：住居跡、楕円柱建物跡、溝、土坑。	1995「西善尺司屋根跡」西善尺司遺跡調査会
6	上佐島中原前Ⅱ遺跡・上佐島中原前Ⅲ遺跡	平安時代：A-B下水田。	1998「上佐島中原前Ⅱ遺跡」、2004「上佐島中原前Ⅱ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団、2013「上佐島中原前Ⅲ遺跡」前橋市教育委員会
7	下佐島遺跡	古墳時代後期の住居跡。	1983「里見野遺跡・下佐島遺跡・宿内御所跡」群馬県教育委員会
8	朝倉工業団地遺跡群 No.1 ~ 7	古墳時代：後期住居跡、Hr-FA下・Hr-FP下水田。平安時代：住居跡、A-B下水田。中世：溝。近世：焼却跡。	2011「朝倉工業団地埋蔵文化財発掘調査報告書」、2012「朝倉工業団地遺跡群 No.2」、「朝倉工業団地遺跡群 No.3」、「朝倉工業団地遺跡群 No.4」、「朝倉工業団地遺跡群 No.5」、「朝倉工業団地遺跡群 No.6」・2015「朝倉工業団地遺跡群 No.7」前橋市教育委員会
9	川曲遺跡	古墳時代：後期住居跡。	1982「川曲遺跡・大谷田六番地」群馬県教育委員会
10	東田遺跡	古墳時代：前中期の遺物出土。	1996「東田遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
11	公田東遺跡	古墳時代：前期溝渠より埴輪土製品。後期住居跡、Hr-FA下水田。奈良・平安時代：住居跡、楕円柱建物、A-B下水田。中世：居住跡。	1997「鶴来川南遺跡・公田東遺跡・公田池底遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財発掘委員会委託
12	公田池底遺跡	織文時代：有舌頭器、古墳時代：Hr-FA下水田。Hr-FA下水田。古墳時代：前期・後期住居跡。平安時代：住居跡、楕円柱建物、A-B下水田。中世：居住跡。	2001「鶴来川南遺跡・公田東遺跡・公田池底遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財発掘委員会委託
13	亀里平塚遺跡	古墳時代：Hr-FA下水田。平安時代：A-B下水田。中世：洪水層下水田。近世：土塙墓。	2001「亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川南遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財発掘調査団
14	宮施中田遺跡	平安時代：A-B下水田。	1997「宮施中田遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
15	横手宮田遺跡	古墳時代：Hr-FA下水田・Hr-FP下水田。平安時代：A-B下水田。中世：洪水層下水田。近世：A-B復旧溝。	2001「亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川南遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財発掘調査団
16	横手宮田遺跡 II	平安時代：A-B下水田。	2004「横手宮田 II 遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
17	井戸南遺跡	古墳時代：Hr-FA下水田。平安時代：A-B下水田。中世：洪水層下水田。近世：溝、A-B復旧溝。	2001「亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川南遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財発掘調査団
18	横手早稲田遺跡	古墳時代：住居跡、Hr-FA下・Hr-FP下水田。平安時代：A-B下水田。中世：洪水層下水田。近世：溝、A-B復旧溝。	2001「亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川南遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財発掘調査団
19	亀里鉢田遺跡・亀里鉢田 II 遺跡	平安時代：A-B下水田。中世：楕円柱建物跡、井戸、土坑、溝。	2001「亀里鉢田遺跡・亀里鉢田 II 遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
20	亀里山田 II 遺跡	平安時代：A-B下水田。中世：溝。	2005「亀里山田 II 遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
21	鶴光路複橋 I 遺跡	平安時代：A-B下水田。	1997「鶴光路複橋 I 遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
22	鶴光路複橋 II 遺跡	平安時代：A-B下水田。中世：井戸、溝、土坑、凹み跡。	2003「鶴光路複橋 II 遺跡」前橋市教育委員会
23	横手川端遺跡	古墳時代：住居跡、楕円柱跡、井戸、Hr-FA下水田。平安時代：A-B下水田。中世：泥炭下水田。屋敷跡。近世：A-B復旧溝。	2001「亀里平塚遺跡・横手川端遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川南遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財発掘調査団
24	横手田道遺跡・横手田 II 遺跡・横手田 III 遺跡・横手田 IV 遺跡・横手田 V 遺跡	古墳時代：船形溝渠。住居跡、Hr-FA下・Hr-FP下水田。平安時代：A-B下水田。中世：洪水層下水田。近世：A-B復旧溝。	2002「横手田道遺跡・横手田 II 遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1998「横手田 III 遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999「横手田 IV 遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003「横手田 V 遺跡」前橋市教育委員会 2001「亀里平塚遺跡・横手田道遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川南遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財発掘調査団 1999「横手田 III 遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003「横手田 IV 遺跡」前橋市教育委員会 2001「亀里平塚遺跡・横手田道遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川南遺跡」財団法人群馬県埋蔵文化財発掘調査団 2003「横手田 V 遺跡」前橋市教育委員会 2005「横手田 IV 遺跡」、2005「横手田 V 遺跡」・2000「横手田 IV 遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団

番号	道跡名	道跡の概要	報告書・参考文献
25	村中道跡	古墳時代：A-C 砂土下水田。平安時代：A-B-F 水田。中世：居館。近世：溝、土塁。	2002「西田道跡・村中道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査委員会調査報告書
26	村中Ⅱ道跡	平安時代：溝、土塁。	2001「村中Ⅱ道跡・西田Ⅲ道跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査報告書
27	西田道跡	古墳時代：A-C 砂土下水田。Hr-F-A 下水田。平安時代：後期住居跡。A-B-F 水田。江戸時代：土塁墓。	2002「西田道跡・村中道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査委員会調査報告書
28	西田Ⅱ道跡	平安時代：A-B-F 水田。後期住居跡。	1998「猪手田西田Ⅱ道跡・西田Ⅱ道跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査報告書
29	西田Ⅲ道跡	構造式：草創期から古天井器。古墳時代：溝。土塁。平安時代：A-B-F 水田。側立柱建物。中世後：溝。	1999「西田Ⅲ道跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査報告書
30	西田通路・西田吉道跡	平安時代：A-B-F 水田。住居跡。溝。中世後：溝。	1999「西田Ⅳ道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財発掘調査報告書
31	西田道跡	平安時代：溝。主堤。	2001「中Ⅱ道跡・西田Ⅴ道跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査報告書
32	西田Ⅲ道跡	平安時代：A-B-F 水田。住居跡。溝。中世後：溝。	2001「西田Ⅵ道跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査報告書
33	鶴見路横櫛道跡	平安時代：住居跡。横櫛式建物。A-B-F 下水田。中世後：中世居館。側立柱建物。	2002「鶴見路横櫛道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査委員会調査報告書
34	鶴見路横櫛Ⅱ道跡	平安時代：住居跡。溝。中世後：土塁。溝。	2000「鶴見路横櫛Ⅱ道跡・徳丸高塚Ⅱ道跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査報告書
35	徳丸高塚Ⅱ道跡	共生以前：溝、土塁。ビット。古墳時代：前期遺物。平安時代：A-B-F 水田。住居跡。溝。土塁。	1999「徳丸高塚Ⅱ道跡・徳丸・卯田城跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査報告書。2005「徳丸高塚Ⅱ道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業報告
36	徳丸高塚Ⅲ道跡・徳丸高塚Ⅳ道跡	平安時代：住居跡。溝。中世後：溝。	2000「徳丸高塚Ⅲ道跡・徳丸高塚Ⅳ道跡・徳丸高塚Ⅴ道跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査報告書
37	徳丸仲田道跡・徳丸仲田Ⅱ道跡・徳丸仲田Ⅲ道跡	構造式：草創期横櫛式土器・有青天井器。古墳時代：前期。後期住居跡。A-C 砂土下水田・水路。Hr-F-A 下水田。平安時代：住居跡。側立柱建物。A-B-F 下水田。中世：居館。	2001「徳丸仲田道跡（1）」・2003「徳丸仲田道跡（2）」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業報告。1999「徳丸仲田Ⅱ道跡・徳丸仲田Ⅲ道跡・徳丸仲田Ⅳ道跡・西・西内寺Ⅱ道跡・下増田越直道跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査報告。2005「徳丸高塚Ⅱ道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業報告
38	西暮尺司道跡・西暮尺司Ⅱ道跡	構造式：石器ブロック。古墳時代：前期圓溝墓。後期住居跡。A-B-F 下水田。中世：居館。大墓。	2001「西暮尺司道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業報告。1998「猪手田豊臣直道跡・徳丸仲田道跡・西暮尺司Ⅱ道跡・下増田越直道跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査報告
39	下阿内寺町堀道跡	古墳時代：円筒埴物跡。上器遺物堆积。溝、井戸。Hr-F-A 下水田。平安時代：溝。近世：A-C 砂土下水田。近世：A-C 砂土下水田。近世：溝。	2001「下阿内寺町堀道跡・下阿内寺町道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業報告
40	下阿内前田道跡	古墳時代：土器。溝。A-C 砂土下水田。平安時代：A-B-F 下水田。近世：A-C 砂土下水田。近世：溝。	2001「下阿内寺町堀道跡・下阿内寺町道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業報告
41	西横手道跡群	古墳時代：Hr-F-A-F 下水田。Hr-F-A-F 下水田。中世：居館。溝。土塁。中世：居館の跡。近世：墓跡。	2001「西横手道跡群」・2002「宿横手二渡川道跡・西横手道跡群」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業報告
42	宿横手三渡川道跡	古墳時代：Hr-F-A-F 下水田。Hr-F-P-F 下水田。平安時代：A-B-F 水田。中世：側立柱建物。土塁。溝。近世：島、灰塙。	1999「宿横手二渡川道跡」・2001「宿横手三渡川道跡」・2002「宿横手三渡川道跡・西横手道跡群」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業報告
43	上境町北道跡	古墳時代：A-C-F 下水田。Hr-F-A-F 下水田。中世：宿。近世：水田。	2002「上境町北道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業報告
44	上境五反畠道跡	古墳時代：Hr-F-A-F 下水田。平安時代：A-B-F 下水田。中世：宿。近世：水田。	1999「上境五反畠道跡」財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業報告
45	横丹道跡	古墳時代：前野川河岸。平安時代：溝。A-B-F 下水田。中世後：土塁。近世以前：側立柱建物。溝、土塁。	2009「横丹道跡」玉村町教育委員会・玉村町道調査会
46	柄田道跡	奈良・平安時代：住居跡。側立柱建物。A-B-F 下水田。近世：A-B-F 水田。	2011「柄田道跡（第1次～第5次発掘）」玉村町教育委員会
47	鈴町道跡	構造式：草創期から古天井器。古墳時代：溝、土塁。中世後：溝。道跡（東山道跡）。平安時代：A-B-F 下水田。近世：水田。	2007「鈴町道跡・柄田町道跡・中之坊道跡」玉村町教育委員会

古墳名	所在地	残存	形態				時期	備考
			前方	後方	前方後円	帆立貝形		
a 丸塚古墳	前橋市山王町	○			●		● 分長 60m。	
b 金冠山古墳		○		●			● 分長 55m、金鋼製金冠出土。	
c 下川瀬3号墳	前橋市公田町	○		●	●		後円部一部残存。	
d 浅間社古墳	前橋市横手町	○			●		直徑約 32 m。	

城・櫛淵群名称	所在地	時期	第・在城者	遺構				備考
				堀	土居	戸口	他	
ア 稲荷城	前橋市鬼力町	16 C	二輪右丹	○	○	○	櫛白・被小屋	文献、「松原私説」
イ 阿内古城		文明8年・土御門						文献、「松原私説」
ウ 方丸城	前橋市方丸町	15 - 16 C	方丸氏	○	○	○	根小屋	文献、「水様日記」「藤生文書」
エ 新照城	前橋市新照町	16 C	和田正盛					利根川氾濫により消滅。
オ 福島内戸城	前橋市上佐久町		福島氏	○	○	○		元永政から西原へ移る。
カ 佐久間横塹集落	前橋市佐久間町							
キ 山王城廻集落	前橋市山王町							
ク 下岱古墳塹集落	前橋市下岱町							
ケ 舟堀町塹道構群	前橋市鬼力町							天持原数は2重の堀。
ミ 三谷田塹道構群	前橋市三田町							
サ 前田城廻	前橋市鬼力町							2重の堀。
シ 鶴見鬼力城廻道構群	前橋市鶴見小鶴町							14ヶ所の櫛淵遺構。
ス 東豆原城廻道構群	前橋市豆原町							
セ 尾久町塹道構群	前橋市尾久町							
ソ 西森町塹道構群	前橋市西森町							
タ 旧西森塹道構群	前橋市西森町	16 C	領田氏	○	○	○		2重の堀。
チ 扇形塹道構群	前橋市西森町							
フ 斧力町塹道構群	前橋市鬼力町							
ト 新居城廻	高崎市新居町							
ト 田口城廻	高崎市中島町	16 C	田口義祐	○	○	○		
ナ 横手城廻道構群	前橋市横手町							低水の小型道構。近世。

III 調査の方法と経過

1 調査範囲と基本方針

今回の発掘調査は、前橋市教育委員会が実施した試掘調査の結果に基づき、ガソリンスタンド建設に伴う工事計画から現状保存が困難な箇所について発掘調査を実施した。調査区は1240 m²で、グリッド座標は国家座標（世界測地系、平面直角座標第IX系）X = 37300、Y = - 67400 を基点とする4 m単位のものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅から番号を付与した。調査は遺構確認面まで重機（0.7 mバックホウ）で表土を掘削した後、人力で遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の順で実施した。遺構の記録については、トータルステーション・電子平板を用いて測量・編集した。写真記録は35 mmモノクロ・リバーサルフィルムカメラ、デジタルカメラの3種類を使用し、全景撮影ではUAVによる空中撮影を行った。整理作業に当たっては、本文・図面・図版にわたる全ての作業をDTPの手法を用いたデジタル編集・組版によって報告書を作成した。

2 調査経過

調査に先立って令和5年11月8日に店舗駐車場と調査範囲との境界にバリケードを設置、同時に掘削範囲の植栽を伐採し、9日にプレハブ・機材庫の設置、10日にトイレ設置、周囲の安全を考慮して防塵対策用のオレンジネットを設置。11日にアスファルト舗装を切断、13・14日に搬出処分。14日に調査範囲の北西から重機で表土掘削を開始、排出土は10 tダンプにて場内に保管した。15日から重機（0.5 mバックホウ）を増やし土山の整形等安全対策を行った。重機ではAs-B軽石上面付近まで掘削し20日から人力で鉋铲・移植ゴテを用いて畦畔や溝・土坑の検出を行った。22日に重機での掘削は終了。24・25日に調査区北西と南東の角に基本層序の為の約1m四方のトレンチを入れた。As-B軽石下水田面においては畦畔・溝・土坑・歩行列などの遺構を検出し、28日全景撮影の為の掃除を行い、翌29日にUAVを用いて調査区全景の空中撮影を行った。畦畔に10箇所截ち割り、3箇所トレンチを入れ土層の確認。11月30日・12月1日に畦畔・トレンチ・歩行列の測量をし、前橋市文化財保護課の完了検査をうけ発掘調査を終了した。4日から9日にかけて埋め戻しを行い、12月11までに機材撤収を行い全ての現場作業を終え、以降は整理作業を開始した。

IV 基本層序

本遺跡では、調査区内の北西及び南東の2地点で基本層序の観察を行った(Fig. 3)。現在の調査地の最上部は碎石を主体とする造成土(Ⅰ層)となっている。その下層には昭和40年台の圃場整備によって造られた水田区画の旧表土(Ⅱ・Ⅲ層)、Ⅳ・V層にはAs-B軽石混土層。VI層では天仁元年(1108年)に浅間山の噴火で降下したAs-B軽石一次堆積層が確認された。VII・VIII層では水田耕作土層と水田耕作基盤層が2地点で確認でき、広範囲に耕作利用されていたと考えられる。また本遺跡ではHr-FA洪水層は確認出来なかったもののⅨ層ではHr-FA洪水層下水田層に相当する粘質土が確認された。IX・X・XI層では粘質土が強くなり、XI・X層には白灰色粘質土(前橋泥流層)を主体としたものと、砂質土を多く含む層(前橋泥流層)が確認された。

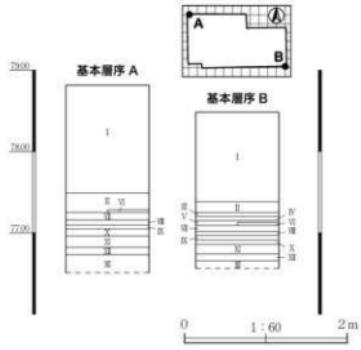


Fig. 3 基本層序



Fig. 4 調査区位置図

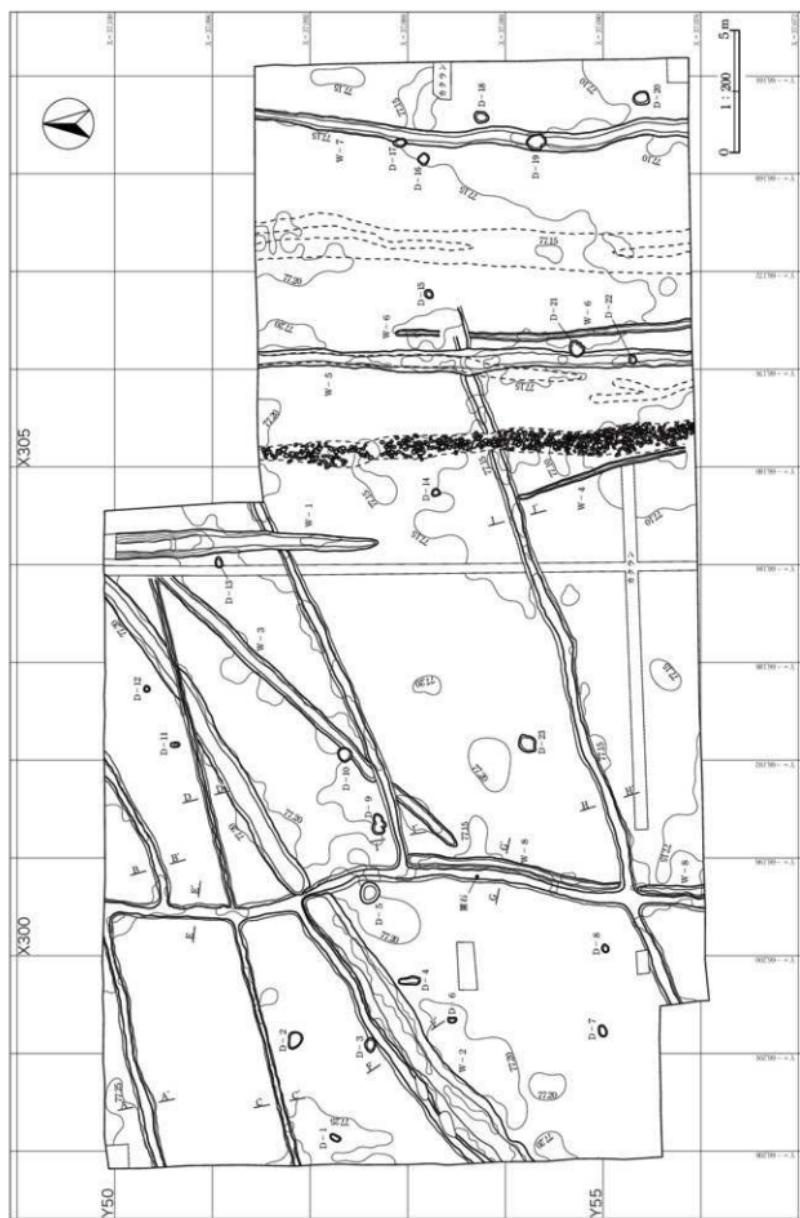


Fig. 5 全体図

V 検出された遺構と遺物

1 調査の概要

今回の発掘調査では天仁元年（1108）の浅間山噴火に伴って降下した As-B 軽石一次堆積層（基本層序VI層）直上を遺構確認面とした。西側では As-B 軽石の残存状況は良好で畦畔を確認することができたが、東半は圃場整備により広く B 混土層から一次堆積層が削平されていたことから、畦畔の検出は部分的に留まった。調査区全体としては 7 条の畦畔と付随する 7 条の溝、As-B 軽石降下直後と想定される 5 条の歩行列、B 混土と水田土壤ブロックを多く含む 23 基の土坑、B 混土を切り旧表土を覆土とする新しい時期の溝 1 条が検出された。

2 中世以降の遺構

（1）溝

W-1号溝（Fig. 7、PL. 1）

位置 X 304、Y 49 ~ 52 重複 無し 規模 走向軸 N - 1° - W、検出長 11.2 m、上場幅 1.05 m ~ 0.63 m、深さ 0.32 m を測り、断面形状は弧状を呈する。覆土 旧表土層（基本層序II）を含む。出土遺物 無し所見 断面から判断すると B 混土を切るような形で検出し、覆土も旧表土層（基本層序II）を含むため、新しい時期の遺構であった。

（2）土坑（Fig. 9、Tab. 3、PL. 2 ~ 4）

検出された 23 基の土坑は形状が楕円～円形と不規則であり、B 混土と水田土壤ブロックを多く含むことから、遺構年代は B 混土堆積以降と考えられる。詳細については Tab. 3 「土坑計測表」を参考されたい。

3 平安時代末期

（1）As-B 軽石下水田（Fig. 5 ~ 7、Tab. 2、PL. 1）

被覆層と水田の残存状況 水田面は As-B 軽石一次堆積層（基本層序VI層）0 ~ 4 cm の厚さで覆われており畦畔と付随した同時期の溝では 7 条が検出されている。残存状況が良好な箇所と削平されていた箇所がある。水田域の地形 水田面の比高差は北西隅から北東隅に 0.09 m、北西隅から南西隅に 0.07 m、南西から南東 0.1 m、北西隅から南東隅に 0.17 m に向かい緩やかに低くなる。畦畔の走向と区画 南北に走向し若干の蛇行がみられた畦畔が 1 条、東西に走向した畦畔が 6 条、全部で 7 条の畦畔が検出された。そのうち南北畦畔を起点とした東西畦畔が 3 条あり、南北から北東方向に斜行している。中央以北に在り東西を横断する 1 条の畦畔では北側面の形は保っていたが南側面では As-B 軽石が潜って浸食され細く低くなっていた。耕作土 水田耕作土表層に耕作が行われていなかったことを示す黒色帯は確認されていない。手配水の方法 検出された溝（W-2・3・8）は畦畔に沿うように走向していたが畦畔で途切れ止まっており、水口も確認出来なかつた為、自然勾配を利用した配水だと考えられる。歩行列 南北を指向する歩行列を 5 条検出した。楕円～円形状の無数の凹凸が列で検出されたことから歩行列と判断した。歩行列 1 は調査区を全通して検出された。歩行列 2 は中央以南で検出され全長約 4.32 m。歩行列 3 は斜行し中央以北で別の遺構（歩行列 2・W-5）と重なって検出された。歩行列 4・5 は近接し検出された。この 2 列は中央付近で接し X 字状に重なる。憶測だが双方が接する箇所以外では細いものの、足跡がなかった箇所は水田面の高まりで上部が削られた畦畔だったとも考えられる。また中央以北で部分的に途切れていたが列を成していたものも存在し、5 条の歩行列と東側にある溝（W-7）とも走向軸、ほぼ等間隔で並び検出されたので、何らかの規則性があることが考えられる。歩行列 1 ~ 5 の覆土には B 混土は含まれず、やや乱れた As-B 軽石層となっていることから、時期については As-B 軽石降下後で B 混土堆積以

前と考えられる。出土遺物 全体的に遺物は少なく、須恵器・土師器などの小破片が出土した。備考 検出された畦畔から水口は無く、緩やかに下る地形を利用したオーバーフローによる配水だったと考えられる。南北方向に延びる畦畔で置石（X = 37085、Y = 66196、Z = 77.194）が出土した。

（2）溝

W-2号溝 (Fig. 7、PL. 1)

位置 X 297 ~ 303、Y 49 ~ 54 重複 無し 規模 走向軸N - 58° - E、検出長28.5 m、上場幅1.57 m ~ 0.75 m、深さ0.13 mを測り、断面形状は緩やかな弧状を呈する。溝は南北畦畔によって分断されている。覆土 As-B 軽石一次堆積層に直接被覆されている。出土遺物 無し 所見 覆土状況から As-B 軽石下水田に伴うものである。

W-3号溝 (Fig. 8、PL. 1)

位置 X 301 ~ 303、Y 50 ~ 53 重複 D - 10と重複している。規模 走向軸N - 44° - E、検出長25.2 m、上場幅0.67 m ~ 0.42 m、深さ0.05 mを測り、断面形状は緩やかな弧状を呈する。溝は東西畦畔によって分断されている。覆土 As-B 軽石一次堆積層に直接被覆されている。出土遺物 無し 所見 覆土状況から As-B 軽石下水田に伴うものである。

W-4号溝 (Fig. 6・7、PL. 1)

位置 X 304 ~ 305、Y 54 ~ 55 重複 無し 規模 走向軸N - 16° - W、検出長7.5 m、上場幅0.26 m ~ 0.14 m、深さ0.05 mを測り、断面形状は緩やかな弧状を呈する。溝の北端は斜行している東西畦畔に接している。覆土 As-B 軽石一次堆積層に直接被覆されている。出土遺物 無し 所見 覆土状況から As-B 軽石下水田に伴うものである。

W-5号溝 (Fig. 6・7、PL. 1)

位置 X 305 ~ 306、Y 51 ~ 55 重複 D - 21・22、歩行列3と重複しいいずれの遺構より古い。規模 走向軸N - 1° - W、検出長17.8 m、上場幅1.11 m ~ 0.61 m、深さ0.04 mを測り、断面形状は緩やかな弧状を呈する。覆土 As-B 軽石一次堆積層に直接被覆されている。出土遺物 無し 所見 覆土状況から As-B 軽石下水田に伴うものである。

W-6号溝 (Fig. 6・7、PL. 1)

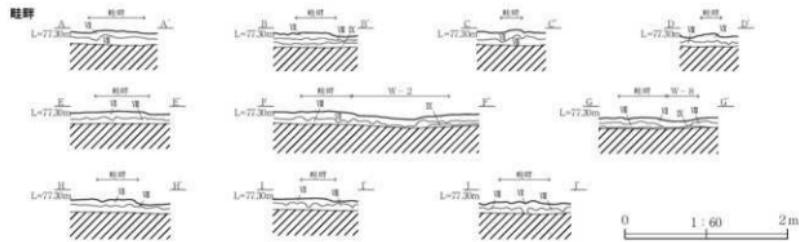
位置 X 306、Y 52 ~ 55 重複 無し 規模 走向軸N - 3° - W、検出長12.1 m、上場幅0.36 m ~ 0.21 m、深さ0.04 mを測り、断面形状は緩やかな弧状を呈する。東西畦畔によって分断されている。覆土 As-B 軽石一次堆積層に直接被覆されている。出土遺物 無し 所見 覆土状況から As-B 軽石下水田に伴うものである。

W-7号溝 (Fig. 8、PL. 1)

位置 X 308、Y 51 ~ 55 重複 D - 17・19と重複している。規模 走向軸N - 3° - E、検出長17.7 m、上場幅0.8 m ~ 0.32 m、深さ0.07 mを測り、断面形状は緩やかな弧状を呈する。覆土 As-B 軽石一次堆積層に直接被覆されている。出土遺物 無し 所見 覆土状況から As-B 軽石下水田に伴うものである。

W-8号溝 (Fig. 8、PL. 2)

位置 X 300 ~ 301、Y 52 ~ 56 重複 無し 規模 走向軸N - 7° - E、検出長11.6 m、上場幅0.6 m ~ 0.36 m、深さ0.06 mを測り、断面形状は緩やかな弧状を呈する。溝は南北畦畔に隣接し東西畦畔によって分断されている。覆土 As-B 軽石一次堆積層に直接被覆されている。出土遺物 無し 所見 覆土状況から As-B 軽石下水田に伴うものである。



歩行列、W-4～6

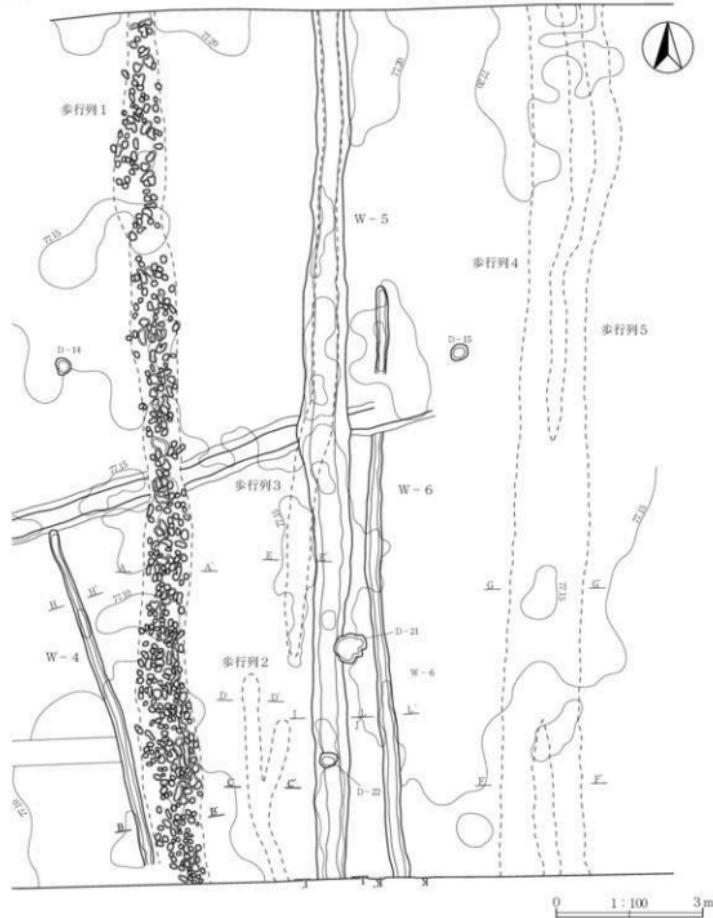


Fig. 6 畦畔、歩行列、W-4～6

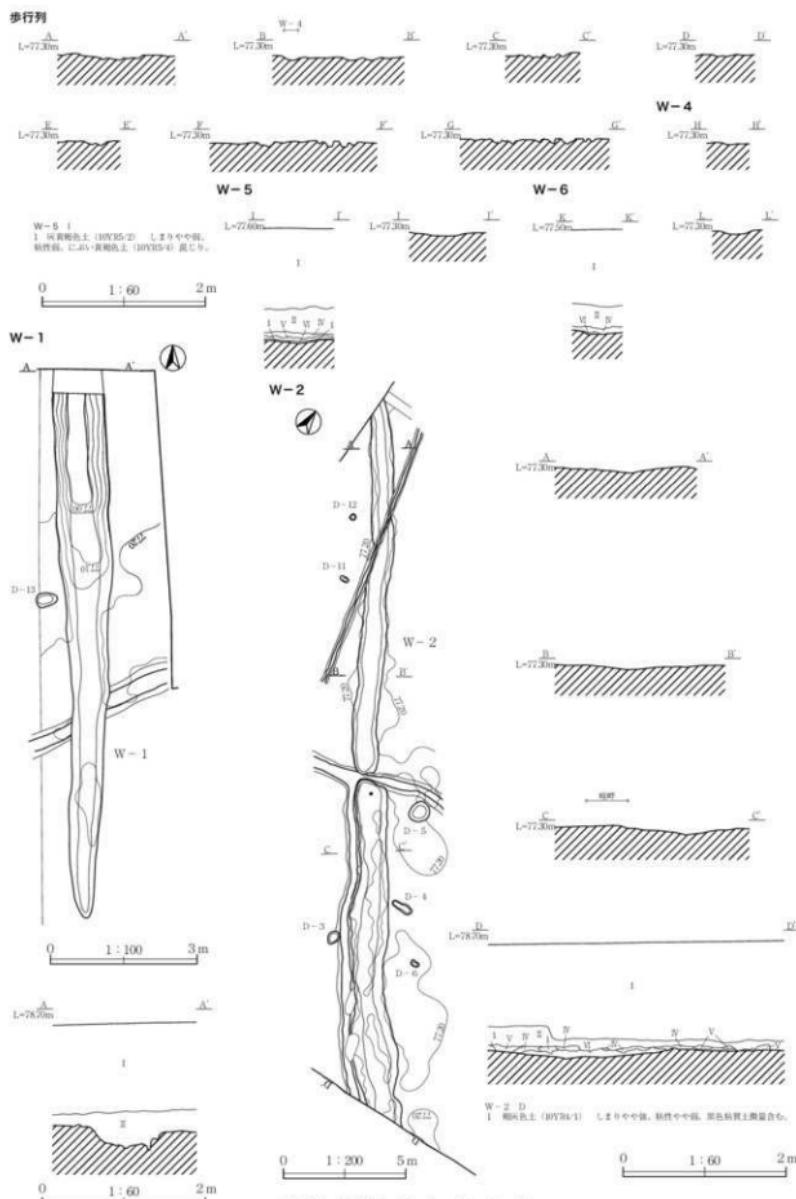


Fig.7 步行列、W=1・2・4~6

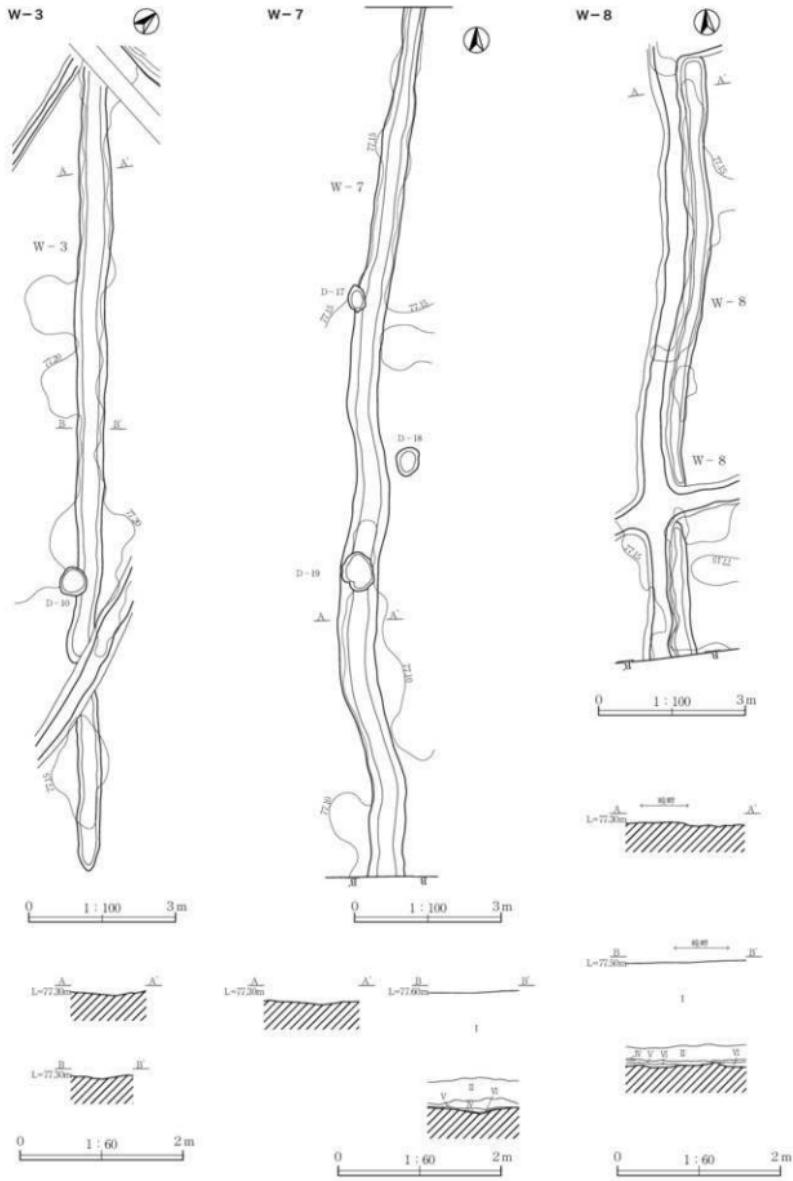


Fig. 8 W-3-7-8

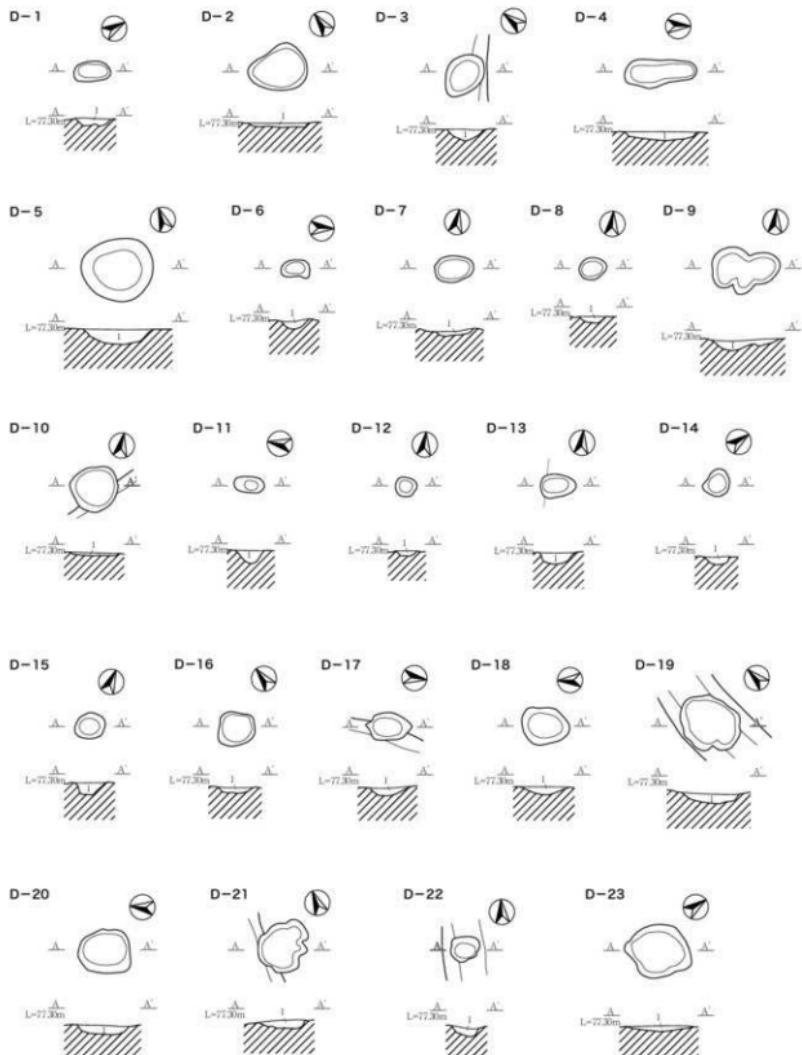


Fig. 9 土坑

Tab. 2 As-B下水田計測表

田面	グリッド	面積 (m ²)	東西 (m)	南北 (m)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
1	X = 37.098 ~ 37.100 Y = - 66.199 ~ - 66.208	(8.90)	(9.58)	(1.57)	-	-	-	-	-	77.27
2	X = 37.092 ~ 37.100 Y = - 66.198 ~ - 66.208	(51.60)	(10.35)	5.22	-	77.23	77.24	-	-	77.23
3	X = 37.085 ~ 37.095 Y = - 66.198 ~ - 66.208	(44.96)	(10.30)	(5.87)	-	77.23	77.22	-	-	77.22
4	X = 37.077 ~ 37.081 Y = - 66.196 ~ - 66.208	(122.33)	(11.14)	14.65	-	77.23	77.19	-	-	77.17
5	X = 37.075 ~ 37.078 Y = - 66.197 ~ - 66.201	(7.02)	(3.94)	(2.59)	-	77.13	-	-	-	
6	X = 37.098 ~ 37.100 Y = - 66.192 ~ - 66.197	(7.00)	(5.94)	(2.20)	-	-	-	-	-	77.24
7	X = 37.095 ~ 37.100 Y = - 66.181 ~ - 66.197	(40.87)	(16.07)	(5.06)	77.22	-	77.21	77.23	-	
8	X = 37.088 ~ 37.099 Y = - 66.180 ~ - 66.198	(95.74)	(16.36)	(8.88)	77.21	77.19	77.21	77.20	77.21	
9	X = 37.079 ~ 37.089 Y = - 66.176 ~ - 66.196	(181.74)	21.91	8.65	77.16	77.19	77.18	77.16	77.18	
10	X = 37.075 ~ 37.085 Y = - 66.176 ~ - 66.197	(120.87)	21.36	(8.47)	77.15	77.15	77.11	-	-	
11	X = 37.076 ~ 37.094 Y = - 66.165 ~ - 66.175	(153.65)	9.52	(17.88)	77.21	77.17	77.19	77.14	77.11	
12	X = 37.076 ~ 37.094 Y = - 66.163 ~ - 66.166	(45.59)	(2.99)	(17.92)	77.16	-	77.13	77.09	-	

Tab. 3 土坑計測表

渡槽名	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考
D - 1	X 301, Y 298	0.45	0.25	0.08	橢円形	
D - 2	X 51, Y 299	0.74	0.58	0.05	不整形	
D - 3	X 52, Y 299	0.59	0.43	0.15	橢円形	
D - 4	X 52・53, Y 299	0.88	0.36	0.10	長楕円形	
D - 5	X 52, Y 300	0.86	0.82	0.18	円形	
D - 6	X 53, Y 299	0.36	0.20	0.12	橢円形	
D - 7	X 54・55, Y 299	0.47	0.33	0.07	橢円形	
D - 8	X 54・55, Y 300	0.34	0.27	0.09	円形	
D - 9	X 52, Y 301	0.83	0.57	0.14	不整形	
D - 10	X 52, Y 301・302	0.58	0.54	0.03	円形	
D - 11	X 50, Y 302	0.27	0.20	0.16	橢円形	
D - 12	X 50, Y 302	0.26	0.24	0.06	円形	
D - 13	X 51, Y 303・304	0.44	0.31	0.14	橢円形	
D - 14	X 53, Y 304	0.38	0.33	0.16	円形	
D - 15	X 53, Y 306	0.50	0.47	0.08	円形	
D - 16	X 53, Y 308	0.44	0.43	0.07	円形	
D - 17	X 52, Y 308	0.55	0.35	0.10	橢円形	
D - 18	X 53, Y 308	0.60	0.49	0.10	橢円形	
D - 19	X 54, Y 308	0.80	0.64	0.11	橢円形	
D - 20	X 55, Y 308	0.64	0.58	0.11	橢円形	
D - 21	X 54, Y 306	0.66	0.54	0.10	橢円形	
D - 22	X 55, Y 306	0.37	0.29	0.11	橢円形	
D - 23	X 54, Y 302	0.85	0.68	0.06	橢円形	

VI 発掘調査の成果と課題

今回の調査では、1108年の大嘗山噴火で降下したAs-B軽石によって埋没した水田が調査区の大部分で検出された。周辺の調査結果から大畦畔の検出が期待されたが、明確にそれと判断できる状態では検出されなかった。今回の調査結果で気付いたことと周辺遺跡の事例等を照らし合わせて概観してみたい。

As-B軽石下水田について

前橋台地南部地域は、北関東自動車道及びそれに連絡する大規模事業に伴う発掘調査によってAs-B軽石下水田の調査事例が増加した。従来からの圃場整備前の旧地形、現況地割を中心とした古地図、航空写真による考察だけではなく、実際に発掘調査を行って検出された水田を基に、面的に条里型地割を広範囲にわたって検討することが可能になっている。今回の発掘調査で確認できた坪内区画は南北畦畔が1条、東西畦畔が6条の計7条である。南北畦畔は北を指向し、東西畦畔は東北から南西にやや斜行する。水田面は東西方向を長辺とする長方形であり、地形は北西から南東へ緩やかに下る。田面の保水を考えた場合に、地形の傾斜に直交する東西畦畔を造り、水をオーバーフローさせ順次、南へ水を張るかけ流し灌漑の方法をとっている。

周囲に目を向けると、北西に位置する小字天神、油免、茶花の地割は河川等の影響を受けて乱れており(Fig10の想定図トーン部分)、水が流れている影響だと推定される。南部拠点地区遺跡群No.4の発掘調査においては当該期の水路と考えられる大型の溝(南部拠点地区遺跡群No.4、2a区11号溝)が検出されており、さらにこの溝の近隣からはHr-FAやAs-Cを含む溝が複数検出されていることから、從前より通水し易い地形であったと考えられる。この用水系統は、後世に浸食、堆積の影響で地割に乱れを起こし流域を変化させたが、いずれにせよ灌漑用水として扱われていたと考えられる。この旧河川痕跡ともいべき地形は、北に廻ると大字下佐島小字水吐付近で現在の端気川から分岐していることから、本遺跡周辺の水田は一次的には旧端気川から取水・引水されたと推察される。

大畦畔について

本遺跡の南に行われた調査(南部拠点地区遺跡群No.3、10区C)では、中央に水路(W-11)を持つ南北大畦畔とその東西に並列した歩行列が検出されている。更に南調査区(南部拠点地区遺跡群No.3、11区B)では、歩行列は検出されなかったが、中央に水路(W-2)を持つ大畦畔が同一ライン上に検出されている。また、周辺遺跡の事例と同様に本遺跡でも同一ライン上に溝(W-5)を持つ大畦畔が検出された。後の圃場整備によって上部構造物は削平され、中央の溝(W-5)だけが歩行列を残存して検出した。これは同様の特徴を持ったタイプで、同一ライン上にあり本遺跡とも符合した。(Fig.11)

また、Fig10の想定図で、本遺跡の南北大畦畔が通ったライン上を北に廻ると、小字「村中」に所在する鶴光路亀里環濠屋敷群(現 善光寺)の堀によって、大畦畔は消失している。中世の環濠屋敷跡は条里型地割を踏襲しているが、東西は半町ほどずれているが南北方向は旧來の地割を踏襲している。

註

- (1) 前橋市教育委員会 2010 「南部拠点地区遺跡群 No. 4」
- (2) 端気川の上佐島付近の流路が屈曲している地点から、南方の利根川に接する西川と中世の堀跡と考えられる油傳塀の間は、複数の流路痕によって現況地割は認められないが発掘調査により条里型水田は検出されている。前橋市教育委員会 2015 「朝倉・後閑水田道路」
- (3) 大木神一郎氏は『徳丸高塚道路』の報文で、環濠屋敷の関係から現在の端気川の流路は、17世紀に人工河川として代替えされた可能性について言及している。

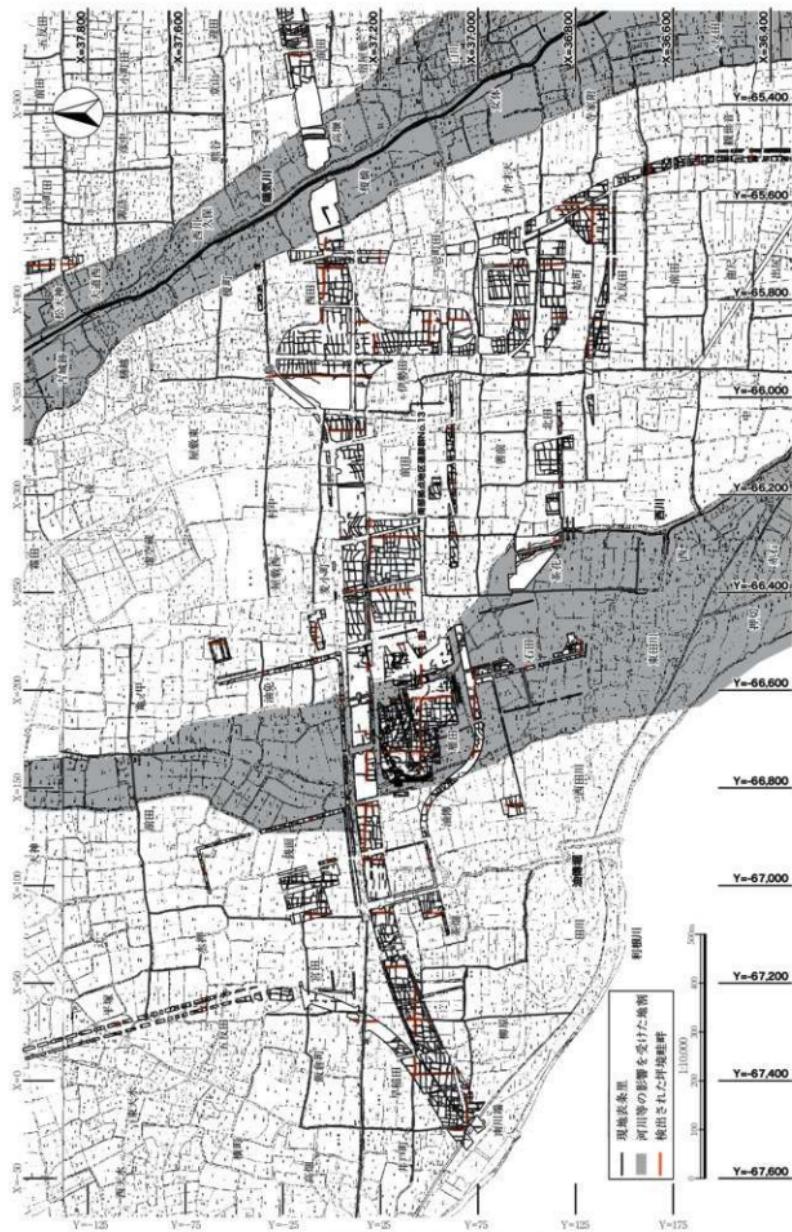


Fig.10 前橋台地南部地域のAs-B軽石下水田

参考文献

論文等

- 新井 仁 2001 「群馬県における平安時代の水田開発について・前橋台地南部を中心とした試論・」『研究紀要』19 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 梅沢重昭 1987 「条里遺構と利根川の変流」『日本の古代道路』16 保育社
- 岡田隆夫 1991 「特論 上野国の大里制」『群馬県史』通史編2 原始古代2 群馬県史編さん委員会
- 金田章裕 1982 「条里プランと小字地名」『人文地理』第34卷3号 人文地理学会
- 金田章裕 2000 「地割の起源」『古代史の論点』1 小学館
- 工楽普通 1991 『水田の考古学』東京大学出版会
- 岡口功一 2012 『上毛野の古代農業景観』岩田書院
- 田中 雄 2002 「群馬県内条里制研究資料の収集と解題」『研究紀要』20 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 群馬県教育委員会 1988 「群馬県の中世城跡図」
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013 「自然災害と考古学 - 災害・復興をぐんまの道路から探る」

発掘調査報告書

- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『徳丸高塚道路』
- 前橋市教育委員会 2010 「南部拠点地区道路群 No.3」
- 前橋市教育委員会 2010 「南部拠点地区道路群 No.4」
- 前橋市教育委員会 2010 「南部拠点地区道路群 No.5」
- 前橋市教育委員会 2014 「南部拠点地区道路群 No.9」
- 前橋市教育委員会 2014 「南部拠点地区道路群 No.10」
- 前橋市教育委員会 2014 「南部拠点地区道路群 No.11」
- 前橋市教育委員会 2022 「南部拠点地区道路群 No.12」
- 前橋市教育委員会 2015 「朝倉・後園水田道路」

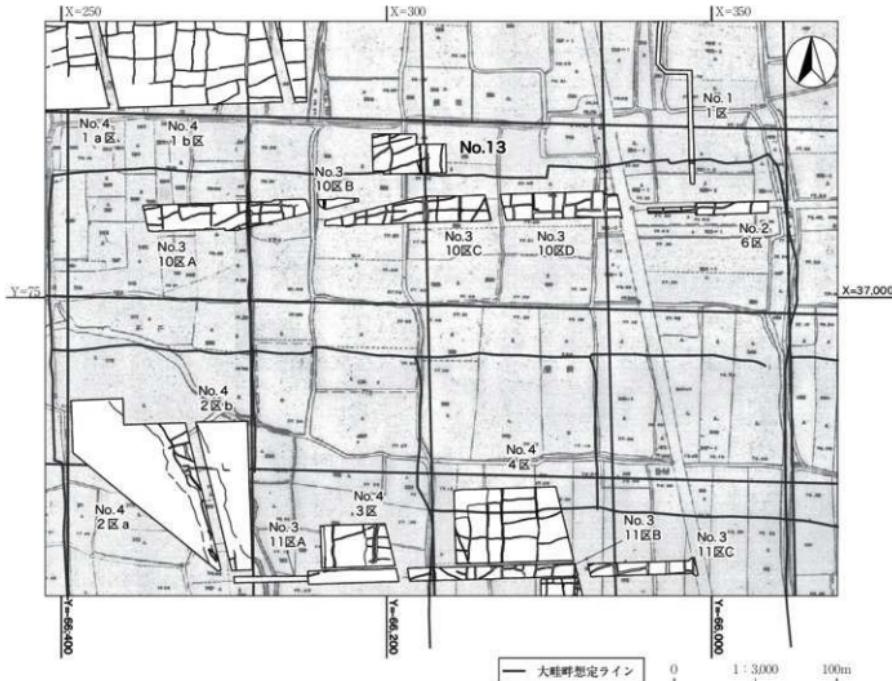


Fig.11 本遺跡周辺の大畦畔想定ライン

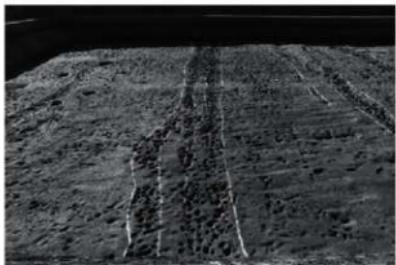
写 真 図 版



畦畔置石全景（南から）



歩行列1全景（北から）



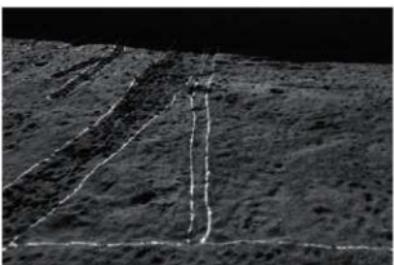
歩行列4・5全景（北から）



W-1号溝全景（北から）



W-2・3号溝全景（北東から）



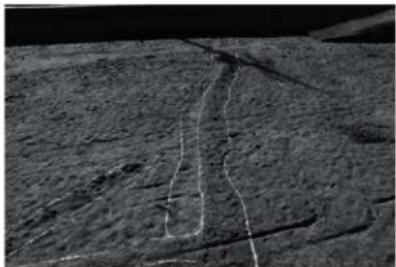
W-4号溝全景（北から）



W-5・6号溝全景（北から）



W-7号溝全景（北から）



W - 8号溝全景 (北から)



D - 1号土坑全景 (南東から)



D - 2号土坑全景 (南西から)



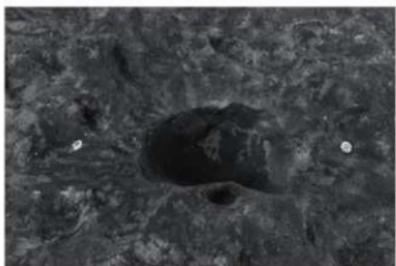
D - 3号土坑全景 (西から)



D - 4号土坑全景 (西から)



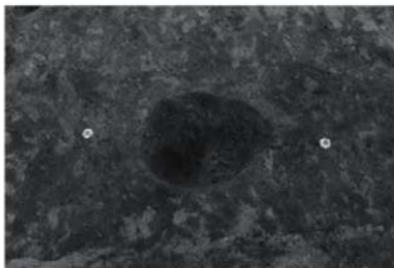
D - 5号土坑全景 (東から)



D - 6号土坑全景 (東から)



D - 7号土坑全景 (南から)



D-8号土坑全景（南から）



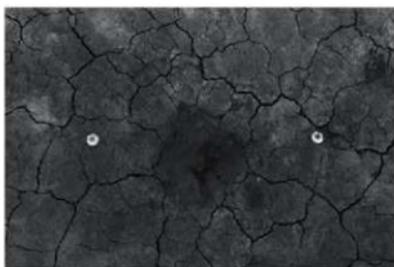
D-9号土坑全景（南から）



D-10号土坑全景（南から）



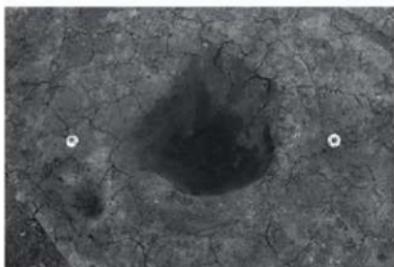
D-11号土坑全景（西から）



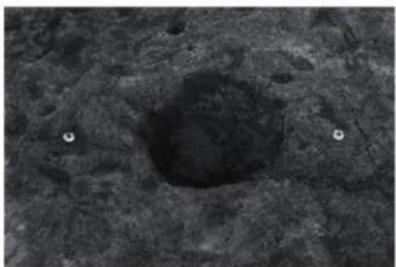
D-12号土坑全景（南から）



D-13号土坑全景（南から）



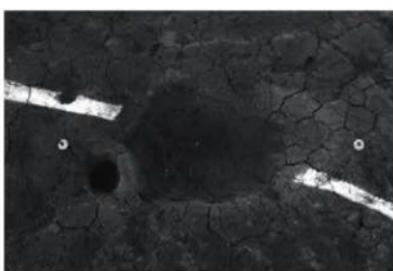
D-14号土坑全景（西南から）



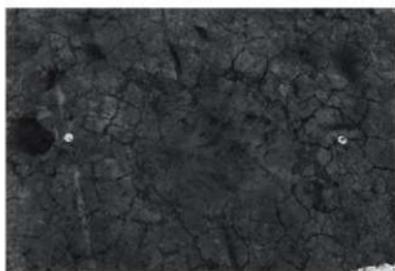
D-15号土坑全景（南から）



D-16号土坑全景（南西から）



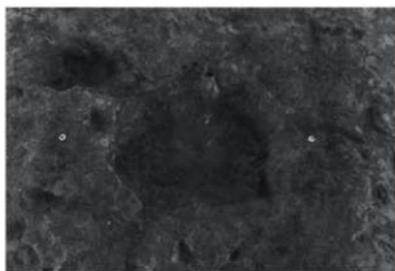
D-17号土坑全景（東から）



D-18号土坑全景（西から）



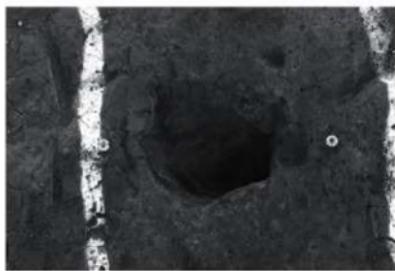
D-19号土坑全景（南西から）



D-20号土坑全景（西から）



D-21号土坑全景（南から）



D-22号土坑全景（南から）



D-23号土坑全景（南東から）

報告書抄録

カタカナ	ナンブキヨテンチクイセキグンNo.13
書名	南部拠点地区遺跡群No.13
副書名	店舗建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.13
巻次	-
シリーズ名	-
シリーズ番号	-
編著者名	曾根裕
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0033 群馬県前橋市国領町二丁目21番12号
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11番地4
発行年月日	2024年1月31日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		所 在 地	市町村	遺跡番号	北 緯			
ナンブキヨテンチクイセキグン 南部拠点地区遺跡群 No.13 (前橋市0379遺跡)	マスパンシ フクシマツカ 前橋市鶴光路町 755、756	102021	5 G 81	36°33'20"	139°09'60"	20231030 20231211	1,240m ²	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
南部拠点地区遺跡群 No.13 (前橋市0379遺跡)	生産 その他	平安時代 中・近世	As-B軽石下水田 溝 歩行列	7条 5条	土師器、須恵器 1条 23基	1108年に浅間山噴火による As-Bに覆われた条里型水田。		

南部拠点地区遺跡群 No.13

店舗建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.13

2024年1月19日 印刷

2024年1月31日 発行

発行 前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11番地4

TEL 027-280-6511

編集 技研コンサル株式会社

印刷 朝日印刷工業株式会社

